

試行・検証等のテーマ

ウェルビーイングを実現させる体験活動～全ての子供たちに～

背景 ・ 課題

○青少年の健全な成長やウェルビーイングの観点から、自然体験活動や社会体験活動等を含め、多様な体験活動の機会を拡充していくことの重要性が求められている。
○しかしながら経済格差やひとり親世帯等の課題を抱える青少年の体験活動を十分に提供できない現状がある。

事業の ねらい

誰一人取り残さない体験活動の取組や個別最適な学びにつながる体験活動の重要性について再認識し、社会全体で全ての青少年の手に届く体験を提供し、さらにウェルビーイングを実現させる体験活動の実現を目指す。

事業内容

<活動の内容>

- テーマに基づいた試行、検証等の方法
特別な環境下における機関・団体における実践報告により、体験活動実践のヒント等を得る。
- 実施期間 令和5年11月18日（土）
- 実施場所 国立妙高青少年自然の家 プレイホール
- 参加者属性、人数 103名
青少年教育指導者、教員、保育士、学生、教育関係者

○具体的なプログラム内容
鼎談「ウェルビーイングを実現させ、
夢や希望を与える体験活動」

分科会

- 第1分科会「学校教育における体験活動を見直そう！
～リアルな体験活動は可能か？～」
- 第2分科会「幼児教育における自然体験活動は学びが
いっぱい！～不自由な体験から学ぶ～」
- 第3分科会「体験活動の感動を高める伝えるICTの
活用！」

全体会

各分科会からの報告と企画委員会副委員長からの総括



成果

- 事業実施後の参加者アンケートより満足83%、やや満足17%と参加された方々から高い満足度を得ることができた。
- 分科会の設定により、各分野からの具体的な取組事例や情報交換を行うことで、ウェルビーイングを実現させる体験活動の取組について、ヒントや示唆を得ることができた。
- 自由記述のアンケートから以下の感想を頂いた。
 - ・様々な経験をされている方から話が聞け、自分自身の視野が広がって参考になった。
 - ・バーチャルとリアルが繋がった時、本当のウェルビーイングが訪れると感じた。
 - ・ICTを活用することによって、教員の負担軽減につながると良いと感じた。
 - ・体験を子供たちが「やらされている」という意識ではなく、「主体的に」がウェルビーイングに繋がると感じた。
- 多くの方から次年度もこのようなフォーラムを開催してほしいと口頭で伝えられた。

今後の 展開

- 体験活動の成果等を発信することは重要であり有益だと考えている。次年度以降も引き続き、社会課題のニーズにこたえられるよう成果等の発信をしていくことが必要だと考えている。
- 運営においては、参加者同士の情報共有・ネットワーク等の構築を具体的に図ることが出来るよう分科会等の充実が必要である。
- 社会課題やニーズに合わせたテーマ設定を行っていく必要がある。